

物流現場の負担軽減

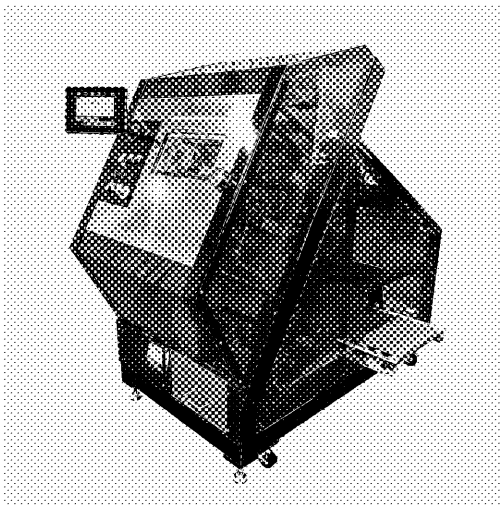
半自動で封筒包装

ゼアーレボ

フジキカイ

ゼアーレボ（東京都港区、黒土浩太郎社長）と、フジキカイ（愛知県北名古屋市、生田涌希社長）は、半自動で封筒を包装できる機械を共同開発し、発売した。物流倉庫などでの包装作業を自動化し、作業員の負担軽減につながる。物流の2024年問題解決につなげる。消費税抜きの価格は1000万円前半。リースやレンタルによる提供も視野に入れる。

毎分10個包装できる「ヴァールンLE」



共同開発したのは「同LE」の2機種。「Valloon（ヴァールン）LE」とした後に扉を閉めてボタ

ンを押すと、機械が封筒のシールを自動で剥がし、包装する。剥がした後のゴミも自動でまとめる。ゼアーレボ最高財務責任者（CFO）の伊藤聡彦執行役員は「扉をなくすこともできしたが、安全性の確保を重視した」と話す。包装可能な最大寸法は、ヴァールンLEが長さ30センチ×幅30センチ×厚さ3センチでポストインサイズの封筒向け、同LEが長さ30センチ×幅30センチ×厚さ18センチで角底

封筒向けとなる。

包装能力は同LEが毎分10個、同LEが同6個で、いずれも人手による作業よりも多く包むことができる。価格も他社の類似製品が2000万円程度なのに対し、両機種は1000万円前半に抑えたほか、大きさは長さ185・6センチ×幅107センチ×高さ166・5センチとコンパクトに設計した。

自社で電子商取引（EC）販売を行う企業やサード・パーティー・ロジスティクス（3PL）、物流業者など向けに販売する。リースやレンタルでの提供も検討中で、人手不足の解決につなげる。両機種は、10日に東京ビッグサイト（東京都江東区）で開催する「国際物流総合展2024」に出展する。